

【向日市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年に中央教育審議会において取りまとめられた『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）では、「新学習指導要領の全面实施」、「学校における働き方改革」、「GIGAスクール構想」を柱に新しい時代の学校教育を実現していくことが重要であり、今後実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」として、各学校においては、ICTを日常的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であるとされました。

また、令和6年に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024」では、「子どもたちの学びの更なる充実と教職員の負担軽減に向け、国策として推進するGIGAスクール構想を中心に、クラウド環境や生成AIの活用等による教育DXを加速する。」としています。

こうしたことを踏まえ、本市においては、新しい時代にたくましく生き、ふるさと向日市から世界に羽ばたき、社会と地位の発展に貢献できる人間が育つ地域づくりを目指し、人権尊重を基盤として、時代の進展に対応した教育を進めています。

さらに、各学校ではICTを活用した新たな教材やアプリケーション、学習活動を積極的に導入するなどICTを効果的に活用した授業に取り組むとともに、向日市教育委員会が策定する学校教育指導の重点では、特に配慮すべき事項として、1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実施と体系的な情報活用能力の育成を挙げています。

2. GIGA 第1期の総括

(1) GIGA第1期の成果

① 1人1台端末とネットワーク環境の構築

本市では、令和2年（2020年）度に児童・生徒及び教職員に1人1台端末（タブレット端末 Wi-Fi モデル）を配備するとともに、各学校にインターネット接続回線を契約しました。また、公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金を活用し、市立小中学校において、校内LAN及び無線アクセスポイントを再整備し、通信速度の増強を図りました。これにより、児童・生徒及び教職員は、1人1台端末を活用して校内の各教室でインターネットに接続できるネットワーク環境の構築を実現しました。

② 周辺機器の充実

1人1台端末の導入に合わせて、各小中学校に大型テレビ、ストリーミングデバイス等の周辺機器を再整備しました。これにより、児童・生徒が資料を投影しながら自分の考えを説明できる環境が整いました。

また、クラウドの特性を活用したリアルタイムな共同編集機能、チャット機能、振り返り・アンケート機能、課題配信等の様々な機能が使える「授業支援システム」や、自分の習熟度に合わせて問題練習を行い、自動採点され結果をリアルタイムに確認できる「デジタルドリル」等のアプリケーションを導入し、タブレット端末を活用した学びを推進できる環境を整えました。

③ 向日市GIGAスクールプロジェクト会議の創設

向日市GIGAスクールプロジェクト会議（以下、「プロジェクト会議」という。）はタブレット端末導入に合わせて設置された、教職員を中心とした1人1台端末の効果的な活用を研究する組織です。各校から2名以上の教職員によって構成され、年4回の実践交流会を行うとともに、他校の実践事例を自校に積極的に取り入れ、市全体で情報教育の推進を図ることを目的として活動しました。

プロジェクト会議の実践交流会を通じて、子どもたちが1人1台端末を学習活動の中で効果的に活用するための取組や課題などを共有し、さらなる活用の推進に向けた協議を行いました。

令和6年（2024年）度には、子ども主体の授業への転換を図るため、プロジェクト会議のメンバーを中心に、児童・生徒がICTを活用する授業を参観し、「効果的なICT活用とは何か」を研究する取組に発展させました。

④ 授業改善の実践事例の収集と公表

教職員が、1人1台端末を効果的に活用した個別最適・協働的な学びの授業実践の参考とし、授業改善を図ることを目的に、令和4年度より実践事例の収集を行いました。収集した実践事例は、京都府の教職員専用のポータルサイトにアクセスすることで、教職員がいつでも、どこでも実践事例を参照できるようになっています。

⑤ 教職員研修の充実

1人1台端末導入以前より、市立小中学校のICT担当者を中心に、ICTを効果的に活用した授業づくりやプログラミング教育に関する研修を実施していました。

1人1台端末導入後は、本市が導入した「授業支援ソフト」及び「デジタルドリルソフト」の活用方法について、全教職員を対象とした校内研修会を各学校で毎年実施し、授業において積極的な活用が図られるように研修の充実を図りました。

⑥ オンラインアンケート調査の実施

児童・生徒の情報活用能力の育成状況や教員のICT活用指導力、児童・生徒及び教員のタブレット端末の利活用状況を把握するためにオンラインアンケート調査を実施し、結果の分析と成果と課題の共有を図りました。

(2) GIGA第1期の課題

① 各種調査結果における成果と課題の共有

ICTの効果的な活用の推進に向けて、全国的な動向や様々な調査結果の情報等も踏まえて、成果や推進を阻む課題の解決に向けた共通認識を図る必要がある。

② ヒアリング等による学校の課題把握及び個別支援

各種調査等の分析等を踏まえて、ICTの効果的な活用を実現させるために各学校の課題を明確にし、その解決に向けた取組を進める必要がある。

③ 教職員研修の一層の充実

教職員のさらなるICT活用指導力の向上を図るため、研修内容や方法の工夫改善が必要である。

④ 先進事例の積極的導入

全国や他市町の先進的な取組を調査研究し、効果的と判断できる取組について積極的に取り入れる必要がある。

⑤ 優れた授業実践事例の収集及び波及

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるため、個々の優れた授業実践を収集し、広く他に波及させる必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市においては、1人1台端末活用とクラウド環境を前提とした「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に向けて、子どもたちが課題を解決するために学習過程や学習形態、何を使って学ぶかなどを自己選択・自己決定していく学びを推進します。

また、GIGA第1期での取り組みを一層深化させるとともに、以下の取組を通じて、国の示す目標の達成を目指します。

(1) 各種調査結果における成果と課題の共有

各種調査（本市独自のアンケート調査をはじめ「全国学力学習状況調査」や「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」等）の結果及び成果と課題を共有することにより、課題解決に向けた共通認識を図ります。

(2) ヒアリング等による学校の課題把握及び個別支援

各種調査の分析や学校へのヒアリングをもとに、学校ごとの課題を把握し、指導主事等による学校訪問や授業参観等の伴走型支援を実施します。

(3) 教職員研修の一層の充実

習熟度別の校内研修や効果的な活用を目指した授業参観など教職員研修の一層の充実を図るとともに、府のポータルサイトや全国教員研修プラットフォームを活用し、学び続ける教職員の育成を目指します。

(4) 先進事例の積極的導入

文部科学省リーディング DX スクールによる先進的な取組や共同調達会議を通じて府内の市町村の先進的な取組等を調査研究し、効果的と判断したものを積極的に取り入れます。

(5) 優れた授業実践事例の収集及び波及

子どもたちがタブレット端末を効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る優れた実践事例を収集・公開し、広く波及させることにより、教職員の授業改善を一層推進します。